

要覧

沖縄県農業研究センター

OKINAWA PREFECTURAL AGRICULTURAL
RESEARCH CENTER



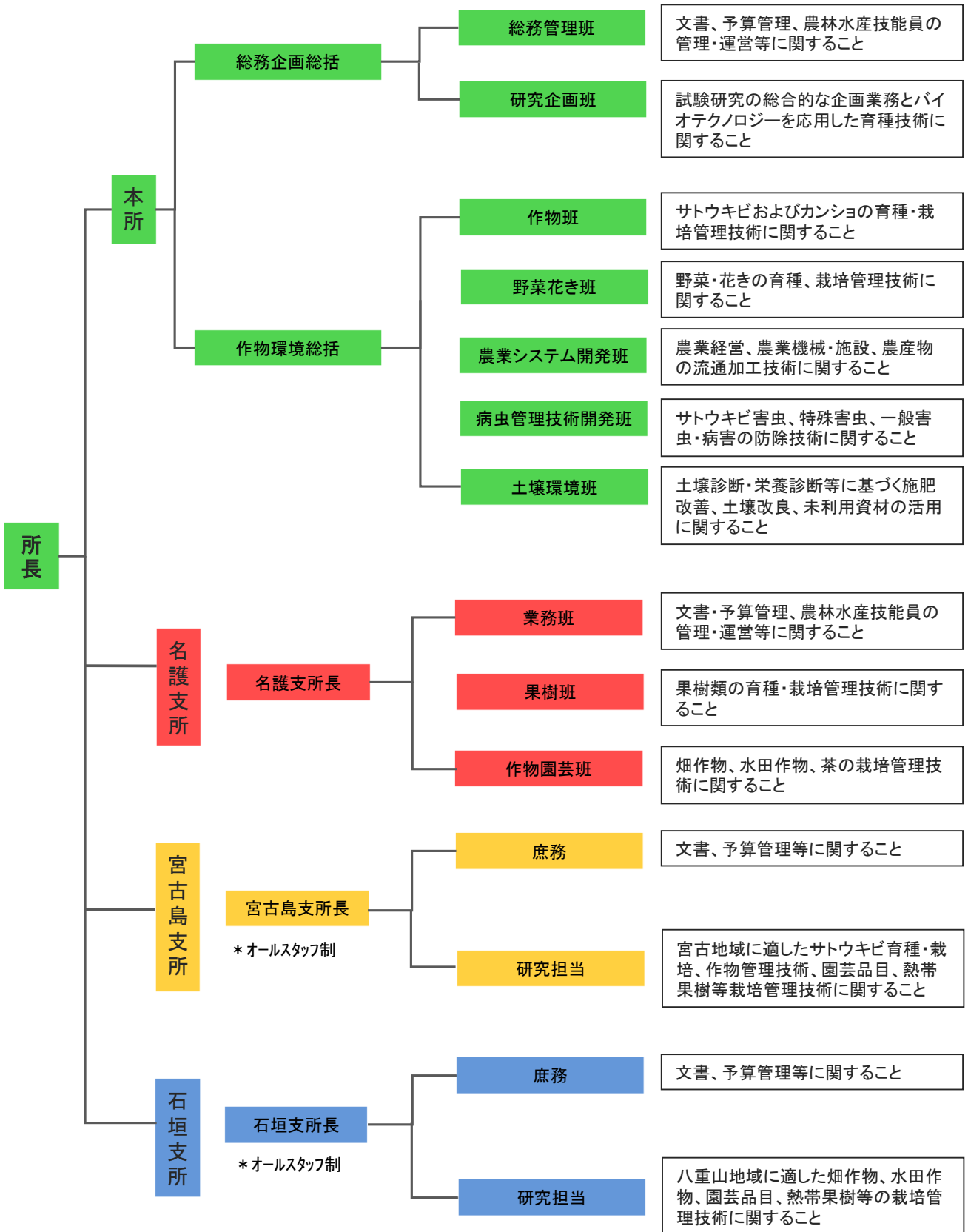
概要・役割

沖縄県農業研究センターは、農業技術の向上を図り、本県農業生産の増大に寄与することを目的に試験研究を行い、技術開発の側面から「新・沖縄21世紀農林水産業振興計画」の目標達成に向けて取り組んでいます。本所および名護支所、宮古島支所、石垣支所の3つの支所で構成されており、亜熱帯地域の特性、各地域の土壌・気候条件等に適合した優良品種等の育成、省力・低コスト生産技術、高品質・安定生産技術等の開発に努めています。

沿革

明治14年 (1881)	真和志間切古波蔵村楚辺原に農事試験場を設立。	昭和23年 (1948)	宮古支庁産業試験場を宮古民政府産業試験場に改称。
明治15年 (1882)	八重山に農産試作場を設置。	昭和25年 (1950)	琉球農林省の発足と共に、与儀・名護・東恩納・宮古・八重山を農業研究指導所と改称。
明治19年 (1886)	農産試作場を農作物育種場に改称(八重山)。	昭和26年 (1951)	各研究指導所を改称。与儀は琉球中央農業研究所、名護は沖縄群島政府農業研究指導所、コザは沖縄群島政府コザ農業研究指導所(東恩納より移転)、宮古は宮古群島政府農業研究指導所、八重山は八重山群島政府農業研究指導所となる。
明治36年 (1903)	楚辺から那覇区宇久茂地に移転。真和志村字安里に安里農場を設置。	昭和28年 (1953)	農業研究指導所を統合して与儀を中央農業研究指導所とし、他を地方農業研究指導所として名護・コザ・宮古・八重山に置く。
明治41年 (1908)	糖業改良事務局(西原我謝)に分蜜工場を設置。	昭和36年 (1961)	行政機構改革により中央農業研究指導所は琉球農業試験場と改称し、各地方の指導所は支場と改称。琉球農業試験場は那覇市与儀から首里崎山町に移転。
明治42年 (1909)	県制施工。国費経営の農事試験場を廃止し、地方農事試験場規程に依り県立農事試験場と改称。	昭和47年 (1972)	沖縄県本土復帰に伴い琉球農業試験場は沖縄県農業試験場と改称。組織も本場は企画管理課、庶務室、種芸室、経営室、化学室、病虫害、園芸室(旧コザ支場)、畑作利用室(旧宮古支場)、名護支場は庶務課・研究室、八重山支場は庶務課・研究室、呉我山試験地となり、八重山支場は庶務課・研究室を置く。
明治45年 (1912)	県立糖業試験場本場を中頭郡西原村字我謝に設置し、久茂地の県立農事試験場は那覇支場と改める。(西原村字我謝の糖業改良事務局廃止。試験・施設・圃場を引き継いで県立糖業試験場本場を設置する。久茂地の県立農事試験場は県立糖業試験場那覇支場と改称。)	昭和50年 (1975)	園芸室は沖縄市(旧コザ市)から具志川市に移転。
大正 2年 (1913)	那覇支場を西原本場に合併。	昭和53年 (1978)	組織改編に伴い本場は5部1課13室、園芸室は園芸支場(1課2室)、畑作利用室は宮古支場(1課2室)と改称。名護支場は1課5室、八重山支場は1課3室となる。
大正 3年 (1914)	羽地村に県立糖業試験場国頭苗圃が置かれる。中頭、島尻、宮古、八重山へも甘蔗苗圃設置。	昭和54年 (1979)	名護支場は名護市東江から前橋原に移転。
大正 4年 (1915)	県立糖業試験場名護試験地を国頭郡名護村字東江に設置。	昭和55年 (1980)	宮古支場は平良市下里から西里に移転。
大正 5年 (1916)	名護試験場を名護支場と改称し、普通農事の試験を行う。	昭和58年 (1983)	組織改編に伴い本場は5部1課14室(特殊害虫研究室の増)、名護支場は1課6室(熱帯果樹研究室の増)、八重山支場は1課2室(特殊害虫研究の減)となる。
大正 8年 (1919)	県立糖業試験場名護支場を分離し、県立農事試験場として独立分離。農商務省から甘藷の人工交配に依る採種事業の委託を受ける。	昭和61年 (1986)	組織改編に伴い本場化学部土壌肥料研究室を土壌微生物肥料研究室と改称。
大正10年 (1921)	県立糖業試験場本場(西原)より畜産部を分離して県立種畜場を創立。	昭和62年 (1987)	組織改編に伴い本場は5部1課14室(バイオテクノロジー研究室の新設、発生予察研究室を害虫研究室と改称)、名護支場に果樹育種研究室を新設し、果樹研究室と茶業研究室を統合して果樹・茶業研究室となる。園芸支場では園芸育種研究室を新設して1課3室となる。
大正13年 (1924)	県立農事試験場は国頭郡名護町から中頭郡宜野湾村字普天間に移転。	平成 2年 (1990)	組織改編に伴い本場は5部1課13室(普通作物研究室の減)とし、園芸支場に根茎作物研究室を新設し1課4研究室となる。宮古支場畜産研究室を園芸作物研究室と改称。
大正15年 (1926)	島尻郡小祿村字安次嶺に園芸部及び蚕業部を設置。農林省委託甘藷改良増殖試験地新設。	平成 6年 (1994)	組織改編に伴い園芸支場は野菜育種研究室と花き育種研究室を新設、園芸育種研究室を廃止し、1課5研究室となる。
昭和 3年 (1928)	県立農事試験場蚕業部(小祿村)を分離して県立蚕業試験場を創設。	平成17年 (2005)	沖縄県試験研究機関の一元化により、主管課が農林水産部畜産支援課から企画部科学技術振興課となる。
昭和 6年 (1931)	県立糖業試験場と県立農事試験場を合併し、島尻郡真和志村字与儀に県立農事試験場を設置。同時に小祿・西原・普天間の各試験地、国頭支場、宮古苗圃を設置。	平成18年 (2006)	沖縄県農業試験場は那覇市首里崎山町から糸満市真壁へと移転。「沖縄県農業研究センター」へと改称。うるま市の園芸支場を本所に統合。名護支場を「名護支所」、宮古支場を「宮古島支所」、八重山支場を「石垣支所」へ改称。組織改正に伴い本所は7班、名護支所は3班、宮古島支所は2班、石垣支所は2班へ整備される。
昭和20年 (1945)	戦終後、石川市東恩納に農業復興東恩納農園開設。その後東恩納農事試験場と改称。国頭農事試験場を名護町に復活。	平成22年 (2010)	宮古島支所及び石垣支所で班体制からオールスタッフ制へ変更される。
昭和21年 (1946)	知念農事試験場設置。与儀農事試験場復活と共に知念農事試験場は廃止。	平成24年 (2012)	組織改編に伴い、主管課が企画部科学技術振興課から農林水産部農林水産企画課となる。
昭和22年 (1947)	宮古支庁産業試験場設置。八重山民政府農事試験場を設置。	平成25年 (2013)	組織改編に伴い、主管課の名称が農林水産部農林水産総務課となる。

沖縄県農業研究センター組織体制



研究班の概要（本所）

研究企画班

■企画・調整担当

研究課題の企画、調整、評価や成果の公表、研究予算の調整のほか、研究機器の整備、知的財産の管理、研究員の資質向上等に関する業務を行っています。

■バイオテクノロジー研究担当

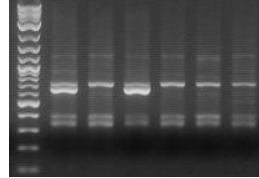
消費者・生産者のニーズに合った新品種を効率的に育成するため、DNA情報の解析やマーカーの開発など、新たな育種システムの開発や種苗増殖技術に関する研究を行っています。



試験成績検討会（外部評価）



パイナップルの組織培養



DNAマーカー開発



沖縄オリジナル品種の効率的な育成

作物班

■サトウキビの育種と栽培技術の開発

省力化・低コスト化により持続的な生産を図るため、株出し性に優れ、機械化適性や多用途利用にも対応した品種育成に関する研究を行っています。また、新たな機械化栽培体系の構築に関する研究や、スマート農業技術に対応した栽培技術の研究を行っています。



ドローンによる省力化技術の開発



国内唯一のサトウキビ交配施設における試験

■カンショの育種と栽培技術の開発

紅イモを中心に、病害に強い多収品種の育成および安定多収栽培技術の開発に関する研究を行っています。



ピレットプランタによるサトウキビ植え付け試験



沖縄県育成の主なカンショ品種（左から「沖夢紫」、「ちゅら恋紅」）

野菜花き班

■野菜の育種と栽培技術の開発

県産野菜の安定生産の促進と県外産地との競争に対応するため、栽培管理技術の改善、省力・低コスト化栽培技術の開発と消費者ニーズに合った品種の育成を行っています。さらに沖縄の有利性を発揮する新規品目の導入と栽培技術の開発に関する研究に取り組んでいます。



アバン系ゴーヤー「沖農G7」



加熱調理後も褐変しないヘチマ「美らへちま®」(右)



トルコギキョウ品種選定および栽培技術の開発

■花きの育種と栽培技術の開発

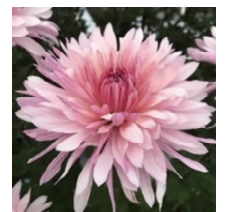
市場ニーズへの対応と省力化に向けたキク類の品種育成および沖縄の有利性を発揮する新規品目の導入と栽培技術の開発に関する研究に取り組んでいます。



沖縄県育成の輪ギク品種「首里の加那」



「首里の令黄」



秋スプレーギク品種「シュリカナサ」

研究班の概要（本所）

農業システム開発班

■流通・加工分野：農産物の食品素材としての特性や貯蔵特性、加工適性の解明、未・低利用資源や規格外品および有用物質や機能性を生かした利用加工技術の開発に関する研究を行っています。

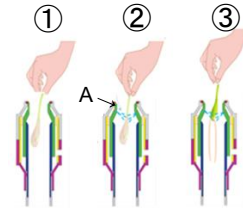
■農業機械・施設分野：本県に適した栽培施設や生産性向上を図るための環境制御システムの開発、様々な土壌条件や栽培規模に対応した農業機械の開発に関する研究を行っています。

■農業経営分野：市場動向や消費者ニーズに対応した農業生産に関する研究、生産性や収益性の向上を図るための経営技術の開発に関する研究を行っています。



25°C 10°C+25°C 5°C+25°C

パイン「冲農P19」の温度別貯蔵試験
(貯蔵後の冠芽の状態)



島ラッキョウ皮むき器の開発

- ①ラッキョウを皮剥き器内に入れる。
- ②空気放出口(A)から圧縮空気が吐出する。
- ③ラッキョウを持ち上げると皮が剥ける。

土壌環境班

■亜熱帯土壌の生産性向上と環境負荷の低減

粘土含量が多く有機物が少ない亜熱帯土壌の生産性向上と環境負荷低減の両立に向けて、土壌調査、有機資源の活用、排水性改善、炭素貯留、窒素負荷低減等の土壌改良技術の開発を行っています。

■施肥基準の設定、有機質資材の施肥技術の開発

環境に配慮し効率的・効果的な施肥管理を行い安定生産を図るため、作物の養分吸収パターンに沿った施肥基準の設定や有機質資材を活用した持続可能な施肥技術の確立を目指します。また、生理障害による要素欠乏等の原因究明と対策技術の確立に取り組んでいます。



本県の主要土壌の断面
(左から：国頭マーシ、島尻マーシ、ジャーガル)



水耕栽培による要素欠乏
・過剰症の症例再現



有機質資材を使用した栽培試験

病虫管理技術開発班

■作物病害虫の防除技術の開発

安全・安心を求める消費者ニーズに対応し、環境に配慮した方法で病害虫を防ぐことを目的に、病害虫防除技術(IPM)の開発に取り組んでいます。

また、沖縄県での発生がみられ日本に定着すると大きな被害が予想される特殊害虫(果実を加害するミバ工類、カンショを加害するゾウムシ類など)の根絶防除技術の開発に取り組んでいます。



イネヨトウ
(成虫)



交信かく乱剤
(ロータイプ)



合成性フェロモン
封入揮発装置

サトウキビ害虫イネヨトウの
合成性フェロモン剤による交信かく乱



施設ピーマン・ナス栽培の天敵利用における
カイガラムシ類の顕在化と防除技術の開発



サツマイモ基腐病の総合的防除
技術の開発



マンゴー炭疽病
葉濡れセンサーの測定
センサーデータとIoTを活用した感染リスク
予測によるマンゴー果実病害の防除技術の開発

名護支所果樹班

■熱帯果樹分野

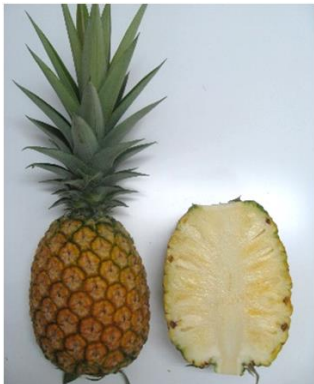
マンゴーを含む熱帯果樹については、高品質安定生産技術の開発を進めるとともに、交配育種により新品種の開発に関する研究を行っています。

■パインアップル分野

パインアップルについては、生食用および各種加工用途に適した新品種の開発やこれら新品種に対応した高品質安定生産技術の開発に関する研究を行っています。

■温帯果樹分野

シークワサー、タンカン等カンキツ類は有望品種・品目の選定および適正肥培管理、剪定、適期防除等の栽培技術の開発に関する研究を行っています。



パインアップル品種「沖農P17」
(商標名サンドルチェ®)



マンゴー品種育成



「アーウィン」
安定生産技術の開発



ドラゴンフルーツ品種
「インバクトルビー」



カンキツ有望品種「津之輝」



アセロラ品種「レッドジャンボ」



パッションフルーツ品種育成

名護支所作物園芸班

■サトウキビ分野

本所作物班と連携し、地域特性に適した品種の育成や適正かつ省力的な肥培管理技術の開発、新たな輪作体系などの栽培技術開発に関する研究を行っています。

■水田作物分野

水稻については、奨励品種の選定や低コスト・安定生産技術開発に関する研究を行っています。その他水田作物では、水田輪作体系の確立のためタイム等の栽培技術開発に関する研究を行っています。

■茶分野

茶については、亜熱帯地域でも安定生産できるチャ品種選定や整枝などの栽培に関する技術開発と平行して、新たな需要が期待される紅茶や釜炒り茶など製茶の技術開発に関する研究を行っています。



サトウキビ試験
(左からRK97-14、NIF8、RK10-33)



水稻品種選抜試験
(左「岩手144号」右「ミルクィーサマー」)



「釜炒り茶」製造技術試験

宮古島支所

サトウキビについては、本所作物班と連携して地域に適応する新品種を育成するとともに、生産現場に対応した安定生産技術や省力化技術の開発に関する研究を行っています。

野菜については、ゴーヤーなどの新品種の育成や高品質な野菜の安定生産技術開発に関する研究を行っています。

熱帯果樹については、県内一の生産量を誇るマンゴーを中心に、名護支所と連携して、高品質な果実の安定生産技術の開発に関する研究を行っています。



ゴーヤーのうどんこ病抵抗性系統
現地適応性試験



サトウキビ圃場の難防除雑草
カワリバトウダイの防除試験
a.カワリバトウダイ

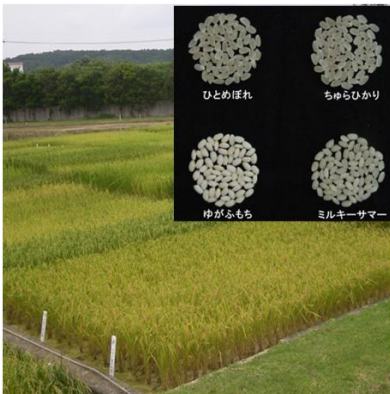


ヒートポンプを用いたマンゴーの
開花時期前進化試験の状況

石垣支所

サトウキビについては、地域に適応した品種の育成と生産現場に対応した安定生産技術の開発に関する研究、水稻については、奨励品種の決定に向けた現地適応性試験と品質と食味の向上に向けた安定生産技術の開発に関する研究、小麦では品種選定に関する試験、カンショでは栽培改善と種苗増殖に関する試験研究を行っています。

パインアップルやマンゴー、インドナツメなどの熱帯果樹では、新品種の育成や高品質な果実の安定生産技術の開発に関する研究、オクラでは、施設栽培による安定生産・早期出荷技術に関する研究を行っています。



水稻品種選抜試験



サトウキビ新品種候補
「RK06-6009」



高糖度の生食用パインアップル
「沖農P19」(商標名ホワイトココ®)



冬春期に収穫できる
有望な園芸品目

本所・支所配置図

本 所 / 〒901-0336 糸満市字真壁820番地 TEL 098-840-8500

名護支所 / 〒905-0012 名護市字名護4605-3 TEL 0980-52-2811

宮古島支所 / 〒906-0012 宮古島市平良字西里2071-40 TEL 0980-72-3148

石垣支所 / 〒907-0003 石垣市平得地底原1178-6 TEL 0980-82-4067

①本所 那覇空港より車で30分



②名護支所
沖縄自動車道許田ICより車で20分



③宮古島支所
宮古空港より車で10分



④石垣支所
石垣空港より車で15分



沖縄県農業研究センター

代表メールアドレス xx049400@pref.okinawa.lg.jp

ホームページアドレス

<https://www.pref.okinawa.lg.jp/shigoto/kenkyu/1010703/index.html>

令和6年4月1日現在